

平成30年度 第2回大和市スポーツ推進審議会 会議録

会議名	平成30年度 第2回大和市スポーツ推進審議会	
開催日時	平成30年7月25日（水）午後3時～午後4時30分	
開催場所	大和スポーツセンター体育会館 第3会議室	
出席状況	委員	9人（荻窪会長、姉崎副会長、池上委員、古市委員、藤倉委員、戸祭委員、熊野委員、菅沼委員、金田委員）
	事務局（担当課）	6人（スポーツ課長、他担当5名）
	傍聴人	0人
担当課	文化スポーツ部スポーツ課地域スポーツ・女子サッカー支援担当 内線（5763）	
公開・非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開	

1. 会議次第

- (1) あいさつ
- (2) 議題
 - ①スポーツ施設等における平成29年度指定管理業務について
 - ②スポーツ推進計画について
- (3) その他

2. 審議又は検討経過及び結果 主な内容は次のとおり

【議題①スポーツ施設等における平成29年度指定管理業務について、事務局より説明】

【議題②スポーツ推進計画について、事務局より説明】

○事務局

次期スポーツ推進計画改定案（以下、改正案とする）の分量については、現行計画に比べ倍近くになっていますが、これは2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることや、国が「スポーツ」の範疇を従来よりも広く捉え直していることなどから、本市の改定案においても、スポーツ・運動に関連する取り組みを幅広く捉えたことによるものです。

また、今後、内容を精査してまいります。記載内容以外にもお気づきの点があれば、ご意見をお願いいたします。

●委員

改正案には「女子サッカーのまち」のことが記載されているが、大和市以外にも女子サッカーのまちを挙げて取り組んでいるところはあるのか。

○事務局

まちを挙げて取り組んでいるものとしては、岡山県美作町の事例があります。

本市の取り組みとしては、総合型地域スポーツクラブとして活動している女子サッカーチームを支援することで「女子サッカーのまち」の実現を目指しています。

総合型地域スポーツクラブにつきましては、現在、国が推進しているものであり、それらの活動を支援することは、国の計画に則したスポーツ振興が行えることにもつながることになりますので、本市には他にも2団体の総合型地域スポーツクラブが存在しておりますので、そちらの方の活動についてもさまざまな形で支援していきたいと考えております。

●委員

本市がホームタウンチームとして認定している、大和シルフィードの今季リーグ戦の結果について、事務局から報告してください。

○事務局

大和シルフィードは、女子サッカー「なでしこリーグ」の3部にあたるチャレンジリーグに属しておりますが、チャレンジリーグはイーストとウエスタの2つに分かれており、大和シルフィードはイーストに属しています。その中で、今季はイーストの1位として日程を終了しました。

今後、9月にはイースト・ウエストの上位1, 2位の4チームで順位決定戦が行われ、この中で1位となったチームが2部リーグへ昇格、2位のチームが現在2部に所属する9位チームとの入れ替え戦に臨むということになりますので、まだ、なでしこリーグ参入への戦いが続いている状況です。

●委員

横浜 DeNA ベイスターズは県内唯一のプロ野球チームとして県内自治体と協力のもと、地域貢献事業に取り組んでいる。改定計画にはベイスターズのこと盛り込んでどうか。

○事務局

改定案に記載しているものは、本市が要綱を定め認定しているチームやホームタウンとして協定を結んでいるチームの取り組みなどを記しています。横浜 DeNA ベイスターズの事業については、そういったものがないため、改定案に記載するためには、ベイスターズとの協定や覚書などを交わすことが必要となります。

●委員

改定案では、児童生徒の体力・運動能力調査の結果にも触れていますが、本市においても全国同様、子どものスポーツをする子としない子の二極化が進んでいます。また、神奈川県の子どもの運動能力は全国平均よりも低い結果となっています。

現在、公園では、他の利用者の安全確保の課題等もあり、ボール遊びを禁止するところが多くあり、そのことが、子どものボールを扱う能力の低下につながっているとも考えられます。そうした中において、大和市では「ボール遊びができる公園」など、環境を整備していただき、大変感謝しています。

●委員

児童生徒が学校体育の中で運動している時間について、改定案の成果指標を定める上での実績値に含めてはどうか。

○事務局

スポーツ推進計画は社会教育の分野に属しており、学校教育を含めていないため、学校体育の運動時間とは別のものとして指標を設定しており、またこの計画は、社会教育の立ち位置から策定しております。

●委員

平成29年度のアンケート、体力・スポーツに関する調査では対象者を無作為に抽出しているが、今後も抽出方法はこの方法を続けるのか。

○事務局

無作為抽出が、市民の状況を、より広く、より正確に把握できると考えていますので、今後も無作為抽出の方法を採用する予定です。

●委員

現在、eスポーツ等、スポーツの範囲が広くとらえられているので、アンケート調査の中でどの範囲のスポーツを意図しているのか、回答者に分かるようにする必要があります。

また、海老名市では小学生の2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦料の全額助成を検討していると聞いている。そういった取り組みもスポーツにかかわる子どもが増える一因になると思う。

○事務局

本市の取り組みとしては、横浜 DeNA ベイスターズ子ども招待デーの告知や、市内で行われるイースタンリーグの優待料金の設定、トップスポーツ事業における無料観戦デーなどを実施しています。

●委員

部活動も週2日は休みにするよう、スポーツ庁から指導がされているが、休みの日に地域の施設で卓球など、スポーツができる場所があれば生徒のスポーツ実施率の向上につながると思う。

●委員

子ども会で実施するキックベース等の行事でも、ボールが蹴れない、投げられない子どもが増えて
いる。ボール遊びできる公園など、場所が少ないことが原因だと思う。

「なでしこレジェンドがやってくる」の事業に子どもが参加したが、本物を見られるのはすごいと思
った。本物のアスリートを見られる機会は貴重である。オリンピックでも、他の種目でも同じような
本物に触れる機会があるとよいと思う。

審議終了。

以上